

待望の
第一弾!

戦後日本の闇に迫るドキュメンタリー映画

放射線を浴びた

X年後

36歳の若さで亡くなった父
半世紀前、太平洋核実験を目撃した海の男たち
彼らは「被ばく者」だったのか？

思いは風化しない

伊東英朗 監督作品

ナレーション: 鈴木省吾 製作著作: 南海放送

協力: 日本テレビ系列 NNNドキュメント

2015年 / 86分 / 16:9 / カラー / 日本 / ドキュメンタリー

これは、遠い時代・遠い場所の話ではなく、私たちの「X年後」の物語である。

終戦直後の1946年。太平洋上で、米国による核実験が始まった。

しかし多くの漁船が、その後100回を超える実験期間中も、近海でいつも通り操業を続けていた。間に葬られたピキニ水爆実験の真相に迫る前作『放射線を浴びたX年後』から3年。

高知県室戸市ほか各地での継続取材は、新たな展開を迎えていた。

安全や核をめぐる国のあり方があらためて問われる今、かつて日本の繁栄を支えた海の男たちのメッセージに、地方TV局のディレクターが迫った渾身のシリーズ第二弾!



「私の父は、なぜ死んだのか？」
半世紀前の太平洋核実験、
室戸の漁師たちが伝える
無言のメッセージとは――？

東京で広告代理店を経営する川口美砂さん、59歳。故郷である高知県室戸市で、映画『放射線を浴びたX年後』を観たことがきっかけで、元漁師だった父の早すぎる死に疑問を抱き始める。当時「酒の飲みすぎで早死にした」と言われた父。本当にそうなのだろうか？ 高知県南国市在住の漫画家、大黒正仁さん(ペンネーム和気作、代表作『女帝』など)もまた、映画との出会いがきっかけとなって父の死に疑問を抱く。愛する父への強い思いが、二人を動かし始める。

一方、取材チームは放射線防護学の専門家と共に、1950年代当時、雨水の中に高い放射性物質が測定された沖縄、京都、山形を訪れ、独自に土壌調査をおこなう。民家の床板を外し、半世紀ぶりに現れた土。遠く離れた太平洋で起こされた核実験は、今も日本列島に影響を及ぼしているのだろうか？

元漁師たちの証言、破られた船員手帳、厚労省への情報開示請求……。日本列島を揺るがした巨大被ばく事件から半世紀を経た今、決して消え去ることのない「被ばく」の傷跡が、徐々に明らかになる。

今作までの道のり

前作『放射線を浴びたX年後』は、ローカルTV局・南海放送(愛媛)が8年にわたる取材の集大成として公開した映画。その原型となる番組は、日本テレビと系列29局がつづける【NNNDキュメント】でたびたび全国放送された映画公開から3年が話題を呼んだ。映画公開から3年が経過する今なお全国各地で映画上映が続くなか、監督の伊東は「これはゴールではない。事件を解明したい」と取材を継続。その思いはテレビ放送や第一作にとどまらず、今回の第二弾公開へと結実した。

太平洋核実験とは

米国が1946年から1962年まで、中部太平洋のマースシャル諸島ピキニ環礁やクリスマス島、ジョンストン島などで行った一連の核実験(計100回以上)。1954年3月1日に爆発させた「アラボー」は広島に落とされた原爆の1千倍以上の破壊力があると考えられ、近海で操業中の第五福龍丸(乗組員23人)が被ばく。同年9月、無縁長の久保山要吉さんが死亡したことで、日本全国に知れ渡った。

講談社より
同名書籍販売中!

ナレーション:鈴木博之 取材・撮影:伊東亮樹 録音:山内寛子 企画:大西康司 チーフプロデューサー:浅頭英夫 プロデューサー:小倉健嗣
構成:日笠昭彦 音楽:サカサマ 音楽効果:斎藤祐司 特別協力:ニッポン放送株式会社 協力:日本テレビ系列 NNNDキュメント
製作著作:南海放送 宣伝協力:輪島力マックス・プロダクション 宣伝美術:成瀬悠 映像協力:日本トキョメンタリー
写真協力:琉球市教育委員会(従軍歴史民院資料館) 共同通信社 琉球新報 琉球タイムス 2015年 86分 16:9 カラー 日本トキョメンタリー

放射線を浴びた
X年後
2
http://x311.info

2016年11月12日(土) 15:10~ 18:00 (開場15:00) **入場無料**

会場:桜井薬局セントラルホール

仙台市青葉区中央2-5-10 桜井薬局ビル3F 定員150名(予約不要・先着順)
主催・問合せ:放射能問題支援対策室「いずみ」 TEL 022-796-5272

桜井薬局
セントラルホール

JR仙台駅

「いずみ」
Website